

知って得する「建築用語が由来の言葉」の話

私たちが普段使っている言葉の中には建築用語が由来の言葉がたくさんあることをご存じですか？意外な言葉が建築に由来があつて面白いので皆様にもいくつかご紹介したいと思います。

○「建築」の語源について

「建築」という言葉は日本で生まれたものではなく、明治時代に開国した際に入ってきた言葉だと言われています。当時は「造家」と訳されていたようですが、時代や文化が移り変わり現在では「建築」が定着しています。

○建築用語が由来になっている言葉

【いの一 一番(いのいちばん)】

(意味) 一番目・最初に・真っ先に
(語源) 柱の番号が語源。今も昔も建物図面では柱の位置を示すのに、縦方向は「い、ろ、は、に…」、横方向は「一、二、三、四…」と符号を付けています。その一番最初の符号(柱)が『い』の『一』番だったことからこの言葉が生まれ
【釘を刺す(くぎをさす)】
(意味) 念を押す。



(語源) 古来、日本建築は釘を使わず、ほぞと穴を組み合わせたくさびを入れて固定していましたが、いつしか念のために釘を打つようになり、江戸時代から念を押す意味として使われ始めました。

【几帳面(きちょうめん)】

(意味) 真面目・正確・規則正しい
(語源) 几帳とは、間仕切り用の布製屏風のこと。その几帳を支える柱には細かい面取りや刻みが入っており、この面を「几帳面」と言い正確な技術が必要とされたため、今日のような意味合いで使われるようになりました。



【羽目(はめ)をはずす(はめをはずす)】

(意味) 調子に乗り度を超す事。
(語源) 羽目とは板を綺麗に並べて張ること、または綺麗に引っ張ったもののこと。この羽目をはずすことは余程のこと、度を超すことから、今日の意味合いで使われるようになりました。

【建前(たてまえ)】

(意味) 表立った指針
(語源) 柱や梁など主な骨格を組み

立てる上棟式のことを大工さんは「建前」と呼びます。大工さんは建前が済めば大体どの様な家が建つのが分かるため、建前は表立った指針を意味するようになりました。

【しのぎを削る(しのぎをけずる)】

(意味) 互角に戦う
(語源) しのぎとは、棟木を屋根の勾配に合わせて山形に削ることを言います。しのぎ状に削る時、片方を削りすぎると反対側も削って調整しなければならぬので、これが転じて互角に戦うという意味になりました。

【結構(けっこう)】

(意味) 欠点がないさま。
(語源) 中国が語源で、建物の組み立て具合を指す言葉。この言葉が入ってきた当初は、建造物の構造が素晴らしいことを褒めるときに、「見事な結構だ。」という風に使われていました。それがだんだん短縮され、「結構」というだけで素晴らしいことを意味するようになりました。
建築用語が由来の言葉はまだ多くあります。ぜひ調べてみてください。

